

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県番号	2
都道府県名	青森県

【  】  
\*重点をおいた観点にチェックすること

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	五所川原市立栄小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	4	3	3	3	1	21	30
児童数	118	95	123	105	103	92	2	638	

研究の概要

(1) 研究主題

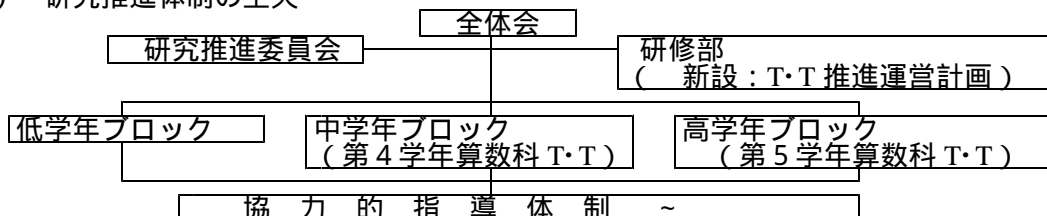
**確かな学力をつけるための個に応じた指導の研究  
～算数科を通して～**

(2) 研究主題設定の趣旨

算数科は、全学年児童の理解の状況に差が出やすい教科である。また、これまでの校内研究の成果・反省と児童の実態調査の結果から、「学習過程において、適切な指導方法や協力的指導体制を工夫し、子どもの自己評価に基づく支援を積み重ねていけば、確かな学力が身に付くようになる。」ことを研究仮説として、取り組むことにした。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫



(2) 研究の実際

- スクランブル学習～学年 T・T (学担 + 副担等) としての取り組み  
 取り出し指導～学級集団を離れ、校長・教頭・教務主任等が行う算数の個別指導  
 小学校における教員の得意分野を生かした一部教科担任制の導入
- ・5年家庭科(5の1学年主任)・5年図工(5の2学担)・5年音楽(5の3学担)・5年社会科(4年副担)・3年書写(教務主任)・4,6年理科,6年書写(6年副担)
  - ・その他の協力的指導体制
  - ・全学年に副担を配置している。
  - ・全校体制で計算力を向上させるため、毎週金曜日の朝30分(はなまるタイム)と毎週金曜日6校時(3年以上, はなまる V) 発展, 補充の時間を位置づけている。

(3) 研究の成果と課題

研究の成果～個に応じた指導

【 スクランブル学習, T・T, ポートフォリオ的ノート指導を中心に 】

スクランブル学習

スクランブル学習とは、学級を解体し、学年の体制, あるいは, 担任 + の多くの目で、学年の子ども達を育む協力的指導体制での学習で、本校では「スクランブル学習」と呼んでいる。個に応じる指導における学級 T・T に対して、学年 T・T である。通常の30～35人学級を少人数で指導ができる。

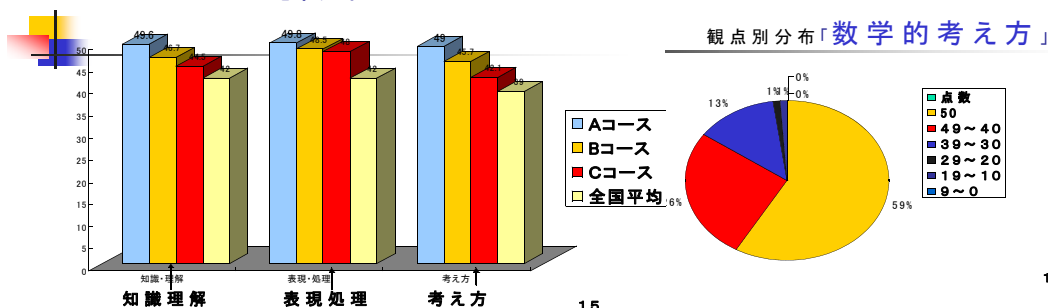
1) 二つのタイプと一単元計画の中の位置づけ

タイプ別 スランブル学習			
コース選択	課題選択型 (随時活用)	コース選択型	
		単元末	単元の初め
コース選択	(自己評価) (オープンスペースの活用 学年が一同に会す) 低学年の場合は、発達段階を考慮した基礎基本・発展的ゲーム等より楽しい取り組みを実践している。	観点別コース選びテストと自己評価でコースを選ぶ。 必要に応じて学習相談。	レディネステスト=コース選びテスト(未習問題1問を含む。作業を伴う単元は、図形をかかせたり操作方法を見取ったりもする。)と自己評価でコースを選ぶ。 必要に応じて学習相談・家庭への連絡。
課題	色別等で課題(計算プリント)を子どもが選択・丸付けし、自己評価でどんどん解決する。 計算領域~基礎基本のプリント、発展的な取り扱いのプリントで、関心・意欲を伸ばす。	基本的にはコースの希望を最優先し、各コースの人数調整をしない。(教室等を活用) 理解や習熟の程度に応じたコースで、どのコースにも発展的な取り扱いの課題を工夫。	基本的にはコースの希望を最優先し、各コースの人数調整をしない。(教室等を活用) 理解や習熟の度合いに応じたコースで、「数学的な考え方」を伸ばす課題の工夫。

2) 単元の初めのスランブル学習の例(第6学年「平均」授業風景)

単元の初めに「スランブル学習をやりたいですか。」の質問に、「ぜひやりたい66%、まあまあやりたい34%」、「授業で自分の分からないことをしっかり理解することができましたか。」の質問に「よくできた83%、まあまあ16%」と答えている。このように興味・関心を持って単元をスタートした。その後単元末のテスト結果を見ると、どの観点も全国平均を上回り、子ども達の努力の跡が伺える。学級枠を外し、習熟度別に体験的操作的活動を取り入れた学習の成果が見えた事例である。

6年 単元「平均」終末テスト



コース・課題選択のある2別進型T・Tの位置づけを

T・T(学級T・T)の3つのタイプ

- 1) T1が主で、T2が個別指導、あるいは取り出し指導~1進1補型
- 2) T1T2が、T1(課題作り) T1・T2(自力解決) T2(話し合い) T1・T2(まとめ・発展)という指導過程を2人で進める指導~2進型
- 3) 発展的学習を選択させ、別々の選択課題を2人の教師が見取る、学級内コース選択型スランブル学習~2別進型

単元の終末に発展的な課題を選択させて、学級内コース選択学習を行ったところ、既習内容を積極的に生かして自分が選んだ課題を解決し、自分達の考え方の交流、類似点などを話し合うこともできた。発展学習を選択させる時は、学習の振り返り(自己評価)を生かしてコースを選ぶ。

ポートフォリオ的ノート指導と問題解決的な学習過程

本校では、フロンティア事業を校内研究を通して日常化を図っている。そのために、問題解決的な学習過程の中にポートフォリオ的ノート指導を取り入れている。子どもが学習を振り返り、分かっていることとそうでないことを自覚し、自ら進んで学習していくことを願い、見えない学力を評価・支援していくのである。

		ポートフォリオ的ノート指導例	
学習活動		ノート(自分の考えを残す)	自己評価(吹き出し等)
学習過程	1 問題をつかむ	・日付, 問題を書く。	・問題へのひらめきやつぶやき(心情面も)を書き込む。
	2 学習課題をつくる	・学習のめあてを書く。	・めあて(課題)に対する予想を既習事項を使って書き込む。
	3 自力解決をする	・どうやったら解けそうか, 今までの考え方を使う(見通しを持つ)。 ・実際に解決してみる。	・実際に解決しながらでもいい。友達へのヒントにもなる。
	4 話し合いをする	・友達の発表や考えを記録する。(解決方法, 内容の比較検討)	
	5 学習をまとめる	・学習のまとめを書く。	・今日の学習から分かったことや感想を書く。
	6 学習の振り返りをする	・感想(始めの吹き出しに対する感想や既習事項を生かしたか, 新しい解決策は何だったか, 次の課題は何か等)を書き込む。	・自分の学習に対する意欲やめあてに対するやり方を第三者の目で認めたり, 変容を感じ取ったりする。

研究の成果～学力テストから H151204 実施 教研式観点別到達度学力検査 CRT(算数)  
(例: 6年の学力の推移は6年 H15 5年 H14 4年 H13 と3年間で見る。単位%)

・教科総合(4観点で)

平成	1年			2年			3年			4年			5年			6年		
	13	14	15	13	14	15	13	14	15	13	14	15	13	14	15	13	14	15
A	85	93	91	59	74	88	61	79	85	56	67	83	35	73	71	73	67	73
C	3	0	2	12	4	1	11	3	3	10	6	4	27	2	7	7	2	5

・数学的な考え方

平成	1年			2年			3年			4年			5年			6年		
	13	14	15	13	14	15	13	14	15	13	14	15	13	14	15	13	14	15
A	85	94	71	44	53	54	61	50	49	44	36	59	26	50	40	65	28	38
C	4	1	8	23	19	6	17	22	15	34	40	25	46	22	20	8	37	25

・考察～ほぼ全観点を通して, Cの割合が少なくなり, 個に応じた指導として, はなまるタイム, 補充・発展の時間, 取り出し指導, T・T, スクランブル学習等の取り組みの成果と思われる。また, 前年度, 「数学的な考え方」のCの割合が高かった反省をふまえ, 授業における具体的な支援のある教材研究, ポートフォリオ的ノート指導で日常的に自己評価に支援していくことを地道に取り組んできたことや, 補充・発展の時間を設け, 発展的な学習への試みが意識化されたこと等が, Cの割合を低くできたものと考えられる。

課題

「関心・意欲・態度」を含む4観点評価と, そうでない3観点評価とCの割合に若干の違いがあることから, 子ども達は, 算数科に対する教師の授業改善(体験的, 操作的等)を受け止め, 関心意欲を持って学習に臨んでいるのではないかと予想される。今後も継続していくとともに, 「表現処理」のC評定の子どもの達に対しては, より一層, 個への支援の仕方を工夫する必要がある。

また, 5, 6年の領域別では, 現5年生は2年間T・Tを実施し, あるいは, 現6年生は2年間スクランブル学習を推進し, それぞれ, 個に応じた指導の結果が出ていると思われる。但し, 単位量あたり, 速さといった5年生からの割合に関わる領域がやや伸び悩んでいる。重点的に取り組む領域を見つめ直して, 子ども達が実感を伴う教材で共に考え合う, より効果的な個に応じた指導のあり方を研究していきたい。

(3) 研究成果の普及の方策

- 14年度・北五校長会における全学級授業提案の実施
  - ・小教研算数部会でのT・T提案授業, 学区研での資料発表等
- 15年度・11月14日 学力向上フロンティア事業中間公開(全学級授業提案)
  - 対象 五所川原市内教員, 他近隣小学校等, 本校保護者(兼参観日)
- 16年度・学力向上フロンティア事業公開(全学級授業提案)(11月上旬)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント(都道府県教育委員会記入)】

栄小学校では、協力的指導体制のもと、算数科を通してTTの活用が工夫が見られる。学級におけるTTをはじめ、スクランブル学習において、課題・コース選択型学習を取り入れ、学級を解体し、学年体制あるいは担任+の指導体制で個に応じたきめ細かな指導に取り組んでいる。また、校長・教頭・教務主任等が算数の時間に空き教室等を利用して取り出し指導(個別指導)を行っている。

日常の授業では、問題解決的な学習過程の中に、ポートフォリオ的ノート指導を取り入れ、子どもが学習の振り返りができるよう工夫している。